

マネジメント施策に関するアップデート 井阪社長メッセージ

本日は、ご多忙の中、また急なお声がけにも関わらず、大変多くの方にご参加いただき、本当にありがとうございます。

早速ですが、冒頭に、まずは、私からは、この度の取締役会における決議内容についてのご報告をさせていただきます。

本日の取締役会において、3 件の議案を決議しました。

1 件目は代表取締役の異動です。5 月 27 日に開催される本年度の定時株主総会を経て、私は代表取締役社長及び CEO を退任します。

その後任として、これまで当社筆頭独立社外取締役として取締役会議長を務めておりました Stephen Hayse Dacus（スティーブン・ヘイズ・デイカス）を代表取締役社長及び CEO に選定*することが決議されました。 *定時株主総会において取締役に選任された後、取締役会において選定します。

2 件目は「マネジメント施策」です。当社はアリマントーション・クシュタール(以下 ACT)社からの提案を受けておりますが、特別委員会を中心に初期段階から ACT 社に対し、米国の独占禁止法関連の深刻な課題にどう対処するのかという点について、一貫して指摘してまいりました。しかしながら、現時点では独禁法関連の課題について解決する具体策が見いだせておりません。従って、現時点において本提案がグループの株主様及び他のステークホルダーの皆様にとって最善の選択となるかどうかについての保証がございません。従いまして、現時点で株主価値を最大化し得ると考えるマネジメント施策を公表することにいたしました。引き続き株主の皆様にとっての価値実現のために、ACT 社からの提案を含めた全ての戦略的選択肢を精査・検討し続けることに変わりはありませんが、今般発表させて頂いたマネジメント施策の詳細については、後ほど Dacus よりご説明いたします。

3 件目は、このマネジメント施策のうち、昨年 10 月に公表しましたスーパーストア事業グループへの戦略的パートナー招聘に関し、当社とベインキャピタル社の特別目的会社との間で、スーパーストア事業グループを 8,147 億円にて譲渡し、当社と創業家合せて 40%持分について再出資を行う最終契約について、決議し本日付けでこれを締結したものです。

決議内容については以上となります。続きまして、私から、特に 1 件目の決議に至るまでの経緯等についてご説明し、その後 Dacus からマネジメント施策についてご説明いたします。

まずは、今回の経営体制の変更に至った背景をご説明します。私が代表取締役社長に就任した 2016 年 5 月以降、デジタルの発展、コロナ禍、そしてインフレーションの進行など、人々の生活における行動変容を促す大きな変化が数多くありました。

このような様々な変化に適切に対応していくことが、当社グループの価値を高めるために不可欠であるとの認識に基づき、2021 年には 5 ヵ年の中期経営計画をスタートし、会社一丸となって、その実現に向けて、様々な施策を推進してまいりました。

その中で、まず何よりも重視したのは、過去の総合小売業を目指す方針からの転換です。国内外

CVS 事業の成長戦略にフォーカスすることで、最適な経営資源配分を実行しながら、「食」を中心とした世界トップクラスのリテールグループへの転換を進めてまいりました。

具体的には、多様化するお客様のニーズに応えるために国内事業の最適化を徹底してまいりました。今般、スーパースタ事業グループについて戦略的パートナーとの最終契約を締結したことで、国内グループ構造の最適化に一定の目途がついたと考えております。また、海外事業のさらなる成長を実現するために、合計 3 兆円程度の投資を積極的に行うなど、最適なグループ事業構造の実現に向けて、大胆な政策を着実に実行してまいりました。

また、企業の持続的な成長を可能とするのは“人財”です。そのような考えから、経営執行体制及び取締役会等、経営基盤をより強固なものとするための取り組みも積極的に進めてまいりました。

また、当社グループの発展は、お客様、お取引先、加盟店、株主・投資家、地域社会そして社員等を含めた全てのステークホルダーの方々からのご支援なくしてあり得ません。改めて、全てのステークホルダーの方々に、多大なるご協力をいただきましたことを感謝申し上げますと共に、今後とも変わらぬご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたす存じます。

このように、当社グループは着実に成長を遂げてまいりましたが、今後さらなる成長を実現するために、今までとは異なる施策も必要となる新しいフェーズに入ったと認識しております。そのため、今こそが経営交代の最適なタイミングと考え、指名委員会に後任の選定について諮問し、Dacus の選任についての答申を得たものです。

CEO のサクセッションプランは最重要課題として、指名委員会において、数年にわたり慎重かつ厳格な議論を頂いておりました。その過程では、社内外の様々な候補者も検討対象となっておりました。

そのような厳格なプロセスの結果、最終的には Steve Dacus がこれからの当社グループの舵取りを任せるとは最も適任であると山田メユミ独立社外取締役が委員長を務める指名委員会にて判断し、その答申を踏まえて、本日取締役会において決議いたしました。

指名委員会が、新しい CEO 選考のポイントで重視した点は、以下の 3 点です。まずは、業界経験や実績が豊富であること。次に、当社が日本市場を基盤として、米国及びアジア等グローバルに展開していく中で成長をリードしていける資質。最後に組織を率いるため卓越したリーダーシップについてです。指名委員会による複数の候補者の中での比較検討を経て、取締役会に答申がなされたものです。

指名委員会として、Dacus の日米欧のリテール事業の経験が当社の目指すグローバルな成長を推進するに際して、最適任と判断しました。私からみても Dacus の 2022 年の独立社外取締役の就任以降、取締役会議長として、そして戦略委員会や特別委員会の委員長として、共に仕事をしてきましたが、その勤勉さと献身的な姿勢は頭が下がる思いでございます。まさに当社グループに求められるリーダーシップを発揮できる人材であると思います。

これで私からのご報告は以上とし、このあと、Dacus からマネジメント施策の詳細についてご説明いただきます。